

【29】オリンピック陸上女子金メダルの快挙

先日終了したパリでの第33回オリンピック大会で最大の快挙は、女子やり投げで北口榛花選手が金メダルに輝いたことです。

マラソン以外の陸上競技で日本の女子アスリートが金メダルを獲得したのは史上初めてです。トラックとフィールドでの陸上競技の日本人の金メダルというと、2004年のアテネ大会でのハンマー投げの室伏広治以来20年ぶりの事になります。

私も以前から彼女のファンだったので大変嬉しいのですが、個人的な感想は別にして、北口選手の金メダルは日本スポーツ界にとって長年の悲願を実現した歴史的快挙だったのです。

マラソンを別にした陸上競技部門（track and field）におけるオリンピックでの女子選手の実績は、昭和3年（1928）にオランダのアムステルダムで開催された第9回大会にまで遡ります。この大会から女子の参加が認められ、日本からも紅一点の人見絹枝が参加しました。彼女は天才的なアスリートで既に、100m競走、200m競走、走り巾跳びで世界的な記録を有し、その活躍を大いに期待されたのですが、その重圧からか参加した種目のいずれにおいても成績を残せませんでした。名誉回復のため未経験の800m競走にチャレンジしたのです。ドイツの選手と歴史に残る死闘をくり広げ世界タイ記録でゴールしたのですが、胸一つの差で同タイムのドイツ選手に負け銀メダルに甘んじたのです。

ゴールイン後、倒れた選手が続出したことから、800mレースは女子にはあまりにも過酷ということで、30年後の第17回大会（1960年）まで中止になりました。彼女はその無理がたたったのか、3年後の昭和6年（1931）に24歳の若さで亡くなりました。以来、陸上競技での女子の金メダル獲得は、日本女子陸上スポーツ界の目標となっていたのです。北口の金メダルは、この長年の宿願を果たしましたが、ここに来るまで96年とほぼ一世紀を要しました。

以上の歴史は、TVや新聞では、“マラソン以外の陸上競技で女子の金メダルは初めて”というばかりで全く触れられていなかったもので、敢えてスポーツに素人の私が耳学問で紹介させて頂く次第です。